目次

はしがき

序章　近代日本官僚制のなかの文部省……1

1　なぜ文部省なのか――本書の背景　1

2　近代日本官僚制と文部省はいかに研究されてきたのか――先行研究整理　3

（1）近代日本官僚制に関する研究――内閣制度導入以降の官僚制を中心に

（2）文部省研究の障壁　（3）近年の文部省研究

3　文部省の人事と文部官僚の評価への着目――課題と視角　11

（1）解決するべき課題　（2）分析視角

4　文部省研究における史料の状況と教育雑誌――本書の使用史料　16

（1）文部省研究を取り巻く史料の状況　（2）教育雑誌への着目

5　本書の構成　19

第Ⅰ部　文部省と官僚任用制度の展開

第1章　内閣制度導入前後における文部省……29

1　近代日本官僚制の根源としての内閣制度の導入　29

2 内閣制度導入以前の文部官僚　30
（1）教育畑官僚の台頭　（2）文部官僚の経歴の実態
3 内閣制度導入前後における文部省の非職人事　39
（1）一八八五年三月の非職　（2）一八八五年一二月の非職
4 内閣制度導入後の文部省　43
（1）森文相の人事と各ポスト　（2）森文相期における人事の安定性と特徴
5 官僚任用制度制定前の文部官僚　47

第2章　官僚任用制度成立期における文部省……54
1 官僚の資格任用制度の整備と文部省の任用　54
2 帝国大学出身者の文部省への入省　55
（1）帝国大学の創設と試補規則の制定　（2）試補規則下における文部省の任用
（3）試補入省期の文部省奏任官
3 井上毅文相期の文部省幹部――「法学」批判の具体的様相　68
（1）井上文相期の教育行政と評価　（2）文部省幹部の人事
（3）文部省幹部への批判
4 木場貞長の教育行政に対する認識　75
（1）木場貞長の経歴　（2）木場の教育行政認識
（3）文部官僚としての木場の評価
5 試補規則期に表出した文部省の固有性　80
（1）文部省における文科と法科　（2）過渡期としての試補規則

第3章　官僚任用制度確立期における文部省……86

1　文官高等試験実施以降の官僚像　86
2　文官任用令の制定と文部省の官僚任用　87
3　「内務官僚」の文部省への異動　92
（1）福原鐐二郎の入省　（2）異動の背景
4　転籍者の府県勤務の経歴とその評価　100
5　法学士の文部官僚　103
6　転籍者に向けられる批判可能性とその克服　106
（1）教育系雑誌からの批判可能性――高文試験合格者・大学派・内務省出身者
（2）転籍者のキャリア形成――批判可能性の克服と法学士文部官僚の既成事実化
7　文部省における転籍者の必要性　113

第Ⅱ部　文部官僚の変容と職種・職務・評価

第4章　内閣制度導入前後の文部省編輯局……123
1　内閣制度導入による文部省内部の変化　123
2　編輯局の設置と国学者・漢学者の入局　123
（1）編輯局の業務と陣容　（2）西村局長下の雰囲気と局員の職務意識
3　一八八五・八六年における文部省の非職人事（一）――依田学海を中心に　128
（1）依田学海の入省　（2）依田と文部省の間隙
4　一八八五・八六年における文部省の非職人事（二）――八五年一二月・八六年一月の非職　132

5 内閣制度導入以降の文部省——森有礼文相と伊沢修二編輯局長の志向 133
（1）森の学問観と人物評価　（2）伊沢局長下の業務と局内の雰囲気
6 内閣制度導入以降の編輯局と分散する国学者・漢学者 137
7 文部本省における学術業務のアウトソーシング 139

第5章 官僚任用制度の展開と文部省視学官……144
1 一般的な文部官僚と特別な視学官 144
（1）官僚制と視学官　（2）文部省視学官に関する研究状況
2 視学制度と視学担当者の変遷——視学官の再設置以前 146
（1）視学の担い手の変遷と視学官の変転（一八七四～九三年）
（2）参事官の視学担当期（一八九三～九七年）
3 視学官の再設置と揺らぐ文部官僚像 152
（1）視学官の再設置　（2）文部省と法令——揺らぐ文部官僚像
4 視学官制度の確立と官僚制度の展開 158
（1）視学官及視学特別任用令の制定と二つの専門性——「一般」と「特別」の生起
（2）視学官における専門性の分化
5 文部官僚の一般任用と特別任用の区分がもたらしたもの 165

第6章 明治中後期における文部官僚の欧米派遣……170
1 文部省における官僚の欧米派遣の意味 170
2 官僚任用制度制定以前における文部官僚の派遣 172
（1）内閣制度導入前後の官僚派遣　（2）諸学校令の改定と派遣
3 官僚任用制度の制定と試補世代の派遣 175

（1）試補世代と「八年計画」　（2）派遣の実態とその成果
4 大正期までの帝大出身各省次官の派遣経験　178
5 転籍者における欧米派遣の特徴　182
（1）ロールモデルとしての福原鐐二郎の派遣　（2）転籍者の派遣とキャリア
6 転籍者による留学成果の発信と教育政策　185
（1）福原鐐二郎の調査と成果　（2）赤司鷹一郎の調査と成果
（3）田所美治の調査と成果　（4）松浦鎮次郎の調査と成果
7 派遣にみる文部行政の特徴と文部官僚の専門性と権威の醸成　190
（1）各時期における派遣の変化　（2）文部官僚における派遣の意義

第7章　教育雑誌による文部官僚の評価――『教育時論』と『教育報知』を中心に……197
1 教育雑誌に関する研究の現状と課題　197
2 教育雑誌出版の隆盛と『時論』・『報知』の画期――一八八五～九〇年　199
（1）『時論』・『報知』以前の教育雑誌　（2）『時論』と『報知』の登場
3 『時論』・『報知』両誌における官僚評価――一八九一～九四年　201
（1）文部官僚に対する原初的評価　（2）井上毅文相期における「法令」
4 教育雑誌と教育行政を取り巻く環境の変化――一八九五～九七年　207
（1）両誌の危機感と自負　（2）文部省をめぐる変化――『時論』を中心に
5 理想の文部官僚像の提示と蓄積する不満――一八九六年　210
（1）文部省に対する『時論』の失望
（2）『報知』による「学務」と「教務」の二項図式
6 「文部省紛擾」とその後――変化する文部官僚の理想像：一八九七年以降　214

（1）両誌と文部省紛擾　（2）文部省紛擾以後の両誌の変化
7 文部官僚評価の変遷と退潮 220
終　章　文部省からみた近代日本の官僚制と官僚 …… 227
1 本書による知見 227
（1）文部官僚の変容と官僚制の展開　（2）各時期における文部官僚の評価
（3）文部官僚の複雑性と教育行政の専門性
2 文部省からみた近代日本の官僚制と官僚 232
（1）文部省人事の閉鎖性と文部官僚のキャリア――逓信・農商務両省との差異
（2）近代日本官僚制研究への含意
3 残された課題と展望 236
史料・参考文献 241
あとがき 255
事項索引
人名索引